

碩 心

可 行 認 発 会 会 岳 風 院 学 吟 詩 本 日 社 団 法 人 神 奈 川 碩

13年6月現在 地区地区地区計 子山地地 葉山船 大合	会員数 125名 185名 24名 334名	13年6月 (347号) 発行者 千 葉 岳 関 編集者 白 井 岳 麗
---	------------------------------------	--

行事予定

- 県本部高段者吟法講座
日 時・13年9月8日(日)
会 場・横浜市栄区公会堂
 - ☎〇四五―八九四―九九〇―
 - 碩心会秋季審査会
日 時・9月15日(日)
 - 神奈川地区師範交流吟詠大会
日 時・9月16日(日)
会 場・本郷台栄公会堂
 - 横須賀第二地区吟道大会
日 時・9月23日(日)
会 場・はまゆう会館
 - 葉山町文化祭吟詩舞発表会
日 時・11月11日(日)
会 場・葉山町福祉文化会館ホール
- ◎ 広報の「碩心」隔月発行に決定
- 先般5月の常任理事会に於て、予算の事情により広報は一月おきに発行することに決定しました。頁数その他は従来通りです。6月以降は偶数月となりますが、教場風景等、寄稿をよろしく願いたします。

平成13年度碩心会総会開催

- 日 時・6月3日(日) 13時より
会 場・逗子市図書館講座室
- 総会成立報告、理事以上約80%の出席率
千葉会長は「二〇〇一年は希望の年として
資質の向上、指導者講習会のあり方を考え、
碩心会の65周年を目指して更に会員の和合を
計りたい」と挨拶。議長に千葉岳関会長、書
記に星野輝岳、鈴木江岳が任命され、12年度
の行事並びに決算報告、13年度の行事予定と
予算を審議して可決されました。
- 各部長の報告より抜粋
- 総務部長 松井正岳
13年度より第二地区の年会費を徴収する
ことに決定。1名につき年間200円。
- 企画部長 内山岳青
13年度の初吟会は196名の参加があった。
- 教務部長 杉山岳雪
13年7月15日の碩心会第4回吟道講座の
参加人員は110名の申込みがあった。
- 許証部長 上村岳章
13年度の高段者は7月1日認許。12月に
許証授与の予定。

決算報告書 回覧のお願い

6月3日の碩心会総会に於て可決の平成12年度決算報告書は各支部で回覧してください。

◎第6回年齢別吟詠大会に入賞

去る5月19日(土)地球市民かながわブラザの大会に於て次の方が入賞されました。

奥伝位 和歌の部 新井國風(逗子B)

昇伝認許 (平成13年7月1日付)

81	84	114	118	122	154	160	163	166	169
星野	加藤	齋藤	金子	大作	西山	高橋	石黒	梅津	草柳
輝岳	美岳	和岳	輝岳	愛岳	蓉岳	之岳	恵岳	祥岳	武岳
80	83	113	116	121	159	162	165	168	168
菊池	西岡	市川	西川	依田	中村	徳本	大前	大塚	寛岳
祐岳	清岳	邦岳	幸岳	清岳	豊岳	華岳	智岳	寛岳	寛岳
	82	112	115	120	158	161	164	167	167
	伊藤	安田	大山	飛田	岡野	押山	江原	朝比奈	奈泰岳
	峰岳	好岳	政岳	智岳	和岳	照岳	一岳	朝比奈	奈泰岳

第23回 碩心会吟道温習会

大船支部 岡本 瑞岳

梅雨も中休みとなった6月24日(日)第23回碩心会吟道温習会が開催されました。

修礼に始まり、松井正岳先生の開会のこと

ばがあり、つづいて鈴木岳抄先生の先導により碩心会詩の合吟が声高らかに響きました。

プログラムは順調にすすみ、11時15分許証授与が行なわれました。

次に会長挨拶となり、千葉岳関会長より65周年大会に向けて、吟の向上に励むことは言うまでもないが、日頃から吟道精神を重んじ礼儀作法、応対儀礼もしっかりと身につけるようにとのお話がありました。

12時30分より午後の部となり、連吟コンクールは8組が吟を競いました。その結果優勝は悠吟の人見・高館組、二位は幸和の河田・福田組、三位は悠吟の時田・渡辺組と決まりました。その後予定より早く進行して加藤岳洵先生より、次回に向け今日の反省に基づいて、今後研鑽に励むようにとの閉会の言葉をいただき、最後に中村岳郵先生の音頭により万歳三唱し、4時終了しました。

横須賀第二地区吟行会に参加して

寒河江吟友会と交流

長柄 根岸 京風

6月17日(日)の朝、6時50分に逗子を出発。

梅雨の季節ですが首都高速を過ぎた頃には眩しい陽が顔を出し、旅に活気が加わりました。



快晴の蔵王お釜にて

窓外の風景を存分に鑑賞しながら早めの昼食を済ませる。道路事情も良くバスは進行。

目指す山形地方に入ると至る所に「サクランボ」の幟旗が見られました。我が吟行会の一行は、寒河江吟友会の方々の出迎えを頂き心温まる歓迎を受けました。

四方を美しい風景に囲まれた、詩吟の森に建つ寒河江吟友会の吟魂碑。木村岳風先生の胸像の前で合吟することが叶い、初参加の私は誠に感激いたしました。親睦の交流会も和やかなうちに閉会となり、寒河江の皆様方に大層お世話になりました。

一日目、最後のサクランボ狩りは和気藹々のうちに最高の味を沢山ご馳走になりました。二日目は昨日より更に天気は上々で、残雪の蔵王連峰は朝日に輝いていました。蔵王の御釜は晴れて、ガイドの説明では今日のような天候は一年を通じ極めて稀であるとのこと。神秘的で雄大な景色を後にして大隣寺へ到着。汗を拭き拭き少年隊の墓へ参拝し、熱い思いで吟を捧げました。

スケジュールも予定通り終了し、一同無事に帰路に着く。役員の先生方、大層お世話様になりありがとうございます。

横須賀第二地区吟行会に参加して（二日目）

真澄 高橋之岳

温泉の効果か、一行は昨日の疲れも取れて元氣一杯。蔵王御釜（山上湖）に向って出発。好天に恵まれ火口壁の陰陽のコントラストは見事でした。また時間によって五色に変化するとも言われる湖は、今日は深いグリーン色。馬の背山には残雪があり、遠くの山並みを眺めている私の背に我が師、村田先生の一言、「万重の山とは、あの景色ですよ」と教えていただいで納得！

冷たい風に送られて次は白石城へ。大手門として本丸の一部を復元したと言う。東北弁のボランティアのガイドさんの案内は心が和み、歴史とロマンが蘇る思いでした。

二日目の主な目的地は二本松少年隊の参詣です。維新の夜明けを前に義に殉じた隊長、副隊長と14名の純粹にして可憐な少年達、会津白虎隊に優るとも劣らない壮烈な戦死を偲び全員で「嗚呼二本松少年隊」の吟を墓前にて朗詠しました。数々のイベントも終り、アルコール好きの人は後部座席を陣取り静かに宴会、恒例のように帰路はカラオケ。

何故か吟より演歌のほうが声が出ているなと思ったのは私だけでしょうか。

無口ですと言いながら舌好調のバスガイドさんや、車中でのビンゴゲーム、心のこもった景品と寒河江吟友会からのおみやげのサクランボと盛り沢山の吟行会は楽しく終りました。諸先輩方のお名前とお顔を再確認できた旅でもありました。

企画担当の皆様、ありがとうございました。
◎註 二本松少年隊について

慶応4年（一八六八年）7月26日、三春藩の降伏により官軍は二本松城下に迫った。藩はやむなく少年隊の出陣を命じ、12歳から17歳までの62名が各隊に配属された。

29日朝、隊長木村銃太郎、副隊長二階堂衛守の率いる少年隊25名が出陣した大壇口で戦闘が開始された。少年隊の放つ速撃弾は敵を悩ませたが多勢に無勢。ついに戊申戦争最大の激戦「大壇口の戦い」は終焉をつげた。明治維新の夜明けを前に義に殉じた少年隊士14名が此処に眠る。

「嗚呼二本松少年隊」の詩は鈴木岳楠先生作で、詩碑は松井岳洋先生が揮毫されたものである。

『詩吟と発音』

(前号からのつづき)

「歌う」とは言葉そのものにふしをつけて音位を変化させるものと区別することができましよう。

歌には、あらかじめ作曲家によって作曲された旋律(メロディ)(つまりふし)があります。歌を学ぶにはまずそのふしを覚えなければなりません。そうしてそのふしに言葉をあてはめて歌うのです。ですから一たんふしを覚えれば、一番「春高樓の花の宴」二番「秋陣營の霜の色」……と文句は変わっても同様に歌うことができますし、替え歌なども可能です。つまり先にふしがあって、文句をそれに当てはめるのが歌だと言えます。

吟は道に、先に言葉(詩文)があります。その詩文を読んでその言葉、言葉の余韻を引き、感情のおもむくところ、或いは高く、或いは低く、或いは強く、或いは弱くふしが付けられます。しかしそのふしは原則として余韻(ア、イ、ウ、エ、オ、ンの6音)につけられるのでなければなりません。つまり先に詩文があって、その余韻にふしがつくのが吟

だと言えます。言い換えれば文句よりふしが優先するのが……歌。ふしより文句が優先するのが……吟だと言えます。

三、発音を大事にせよ。

詩吟は詩文(文句)を大事にするものですが、何よりも詩文の発音、つまり読み方を大事にしなければなりません。

ともすれば、ふし廻しにこだわるあまり、読み方(発音)をないがしろにする傾向もありますが、この傾向を押し進めるときは、前述の吟の特性を失い、ついには歌と変わりがなくなつて、将来、吟が歌の一部として吸収される恐れなしとしません。詩吟の自殺行為と言えましよう。

発音を大事にせよ。ふし廻しよりむしろ発音が肝心だ。詩文を正しく読んでその意味を正しく伝えてこそ正しい詩吟だ。と声を大にして叫びましよう。

(註)詩吟の生い立ちからいっても、ふし廻りより発音のほうが大切であることが証明されます。当初はふしは簡単で今言う韻読調のような吟法が主流であったのです。

四、日本語の三大特色：正しい吟じ方

①母音性：母音で吟じよう。

②等時性：リズムと間々緩急

③高低性：アクセントとイントネーション

一了

入会

370 佐藤 文彦 葉山町堀内二〇四五―十二

(東伏見) ☎〇四六八―七五―一〇〇四

紹介者 山田量風

電話番号変更

70 加藤 溪岳 ☎〇四六八―七七―五三五四

(滝の坂)

退会

156 奥野寿風(一色) 176 加藤玲風(栄)

276 加藤力山(栄) 362 坂本英雄(若葉)

編集後記

うっとうしい梅雨が明け、本格的な夏到来で今年の暑さは厳しいと言う予報。

第23回碩心会吟道温習会も無事に終り、早くも今年の折返し点を過ぎ月日の流れの早いことを実感しております。

6月3日の碩心会総会の席上、千葉会長より指導者の資質の向上と会員の増強について話がありました。時間はかかることですが、会員一人一人の詩吟に寄せる熱意と心掛けで活性化できるものと思えます。